

課題	市への問い合わせ数に対して、空き家バンクや不動産事業者が扱える物件は2,3割に留まっており、放置され荒れ果てたり、取り壊される空き家が後を絶たない。一件の空き家をコストをかけて再生出来ても、地域全体への波及効果は薄い。
目的	“既にあるもの”の価値を様々な活動を通して再定義・提案し、人々の意識を少しずつ変えていく。 地域内外のクリエイティブな発想やスキルを持った人々を繋ぐことで、点の動きを面の動きにしていく。
取組内容	古材・廃材の利活用を起点とし、様々な活動をウェブサイトやSNSなどで情報拡散。思想の共有と共に、いすみ市での活動を広く認知してもらい、結果として空き家の利活用につながる様々なプロジェクトを面的に展開するための枠組みを構築する。
成果	想定したウェブサイトへのアクセスを獲得。空き家についての問い合わせやプロジェクトの始動に繋げることに成功。 経年の魅力を活かした建物の改修を実践的に行い、ノウハウを獲得。様々な古材の活用を行い、捨てられるものを価値あるものに転換。

